



ネットワークを介した映像コンテンツのファイル転送を高速化。わずか1週間で環境を整備し、国内外の20カ所を超える配信事業者へのデリバリーを実現

映像コンテンツの編集やフォーマット変換など、ポストプロダクションを主事業とする株式会社ヒューマックスシネマ(以下、ヒューマックスシネマ)HAC事業部は、あるアニメーション制作会社からIBM Asperaを利用した映像コンテンツのデリバリーの依頼を受けました。しかし、デリバリー開始までに実質1週間程度の猶予しかなく、オンプレミスでの基盤構築は時間的にもコスト的にも不可能と考えられました。そこに提示されたのが、SaaSとして新たにリリースされたIBM Aspera on Cloudです。迅速な導入を図るとともに事前準備を整え、国内外の20カ所を超える放送局や動画配信サイトなどの事業者に向けて、高速かつ高信頼のデリバリーを実現することができました。

【導入製品・サービス】 ● IBM Aspera on Cloud



課題

- あるクライアントからIBM Asperaを利用した映像コンテンツのデリバリー依頼を受け、デリバリー開始までに実質1週間程度の猶予しかなかった
- オンプレミスでのIBM Asperaの基盤構築には、1カ月程度の期間と初期費用がかかると考えられた

ソリューション

- いつでも、どこからでも利用できるSaaSソリューションとして、IBM Aspera on Cloudが新たにリリース
- シーティーシー・エスピー株式会社より、日本初の導入事例として提案を受けた

効果

- 30日間のトライアル版(無料評価版)により、操作方法などを事前に習得
- SaaSソリューションであるため、利用しない期間の無駄なコストをかけることなく、新たに発生した案件に柔軟かつ迅速に対応できる

【お客様課題】

多様な動画配信サービスを手がける事業者がインターネットの世界に続々と登場

モバイル回線を含めたインターネット利用環境の高速化、さらにはスマートフォンやタブレットの普及に伴い、デジタル・コンテンツの流通は大きく様変わりしました。映像コンテンツも例外ではありません。数年前まで多くの消費者は、地上波や衛星放送のTV番組のほか、DVDやブルーレイディスクなどの物理的な媒体を購入またはレンタルし、映像コンテンツを視聴していました。それが現在では、好きな映像コンテンツを、好きな時に、インターネットのストリーミングで視聴するスタイルが大きく広がっています。また、この新たなニーズに対応すべく、多様な動画配信サービスを手がける事業者がインターネットの世界に続々と登場しており、利用者数が拡大しています。

そうした中であらためてスポットを浴びているのが、撮影を完了した映像コンテンツの編集や色調整(カラーコレクション)、フォーマット変換などを行う「ポストプロダクション」の事業者です。コンテンツ制作会社と配信事業者(放送局、動画配信サイトなど)の間に入り、デジタル・データのデリバリーを担うようになりました。

ヒューマックスシネマは、この分野における国内の先駆的な存在です。同社 HAC 事業部の部長を務める倉本 勝則氏は、「映像コンテンツのデジタル・データは大容量となるため、かつてはテープなどの物理メディアにいくつも複製を作り、コンテンツ制作会社から依頼された配信事業者に向けて郵送・輸送するという形を取っていました。しかし、当然のことながらその方法では多大なコストと時間がかかってしまいます。特に海外の配信事業者については、配信(放送)予定日までにメディアが届かないといったリスクもありました。そこで2015年頃より、社内にネットワークを活用した映像コンテンツのデリバリーの仕組みを整備してきました」と話します。

この結果として現在では、ヒューマックスシネマが仲介する映像コンテンツのデリバリーの大半が、ネットワーク経由で行われるようになりました。

【ソリューション】

SaaSソリューションとしてリリースされたIBM Aspera on Cloudが光明をもたらした

現在、ヒューマックスシネマが対応している映像コンテンツのデリバリーには、大きく3つの方法があります。

1つは、「マスター」と呼ばれる映像コンテンツのオリジナル・データを対象としたデリバリーの仕組みです。このデータは特に大容量となるため、スケーラブルなクラウド・ストレージを介して相手先にダウンロードしてもらうという形をとっています。

2つめは、放送・配信品質(HDまたはフルHDクラス)の映像コンテンツのデリバリーの仕組みで、汎用的なファイル転送を用いて相手先と直接データのやりとりを行います。

3つめは、確認用の映像コンテンツのデリバリーで、ヒューマックスシネマの社内に設置されたメディア・サーバーから相手先を限定したストリーミング配信を行います。

上記の方法のうち最も頻繁に行われているのは、2つめのファイル転送の仕組みを用いたデリバリーですが、そこにも多くの苦労がありました。同社 HAC 事業部 メディアサービスのチーフエンジニアである市川 有人氏は、「一口に“汎用的”なファイル転送の仕組みといっても、世の中にはさまざまな方式が存在しています。そのうちのどの方式を用いるかは弊社が決められるわけではなく、クライアントであるコンテンツ制作会社の意向に沿った方法を用いなければなりません」と話します。

そうした中で、あるアニメーション制作会社から寄せられたのが「IBM Asperaを利用して映像コンテンツをデリバリーしてもらえないか」という依頼です。

IBM Asperaは、ネットワークの帯域幅を最大限に活用できるFASPと呼ばれるIBM独自の特許技術を実装したファイル転送のソリューションです。大量のデータパケットをまとめて一気に伝送する機能、確実にデータを送り届けるエラー回避や帯域制御の機能などを

今後、多様なコンテンツのデリバリー先は、大きく広がっていくと予想されます。そこに向けて、IBM Aspera on Cloudを活用し、私たちの提案力や技術力を積極的にアピールしていきたいと考えています。



株式会社ヒューマックスシネマ
HAC事業部 部長
倉本 勝則氏

IBM Aspera on Cloudは必要に応じて転送容量も柔軟に追加することも可能。利用しない期間に無駄なコストをかけることなく、新たな案件が発生すれば、いつでもすぐに対応できます。



株式会社ヒューマックスシネマ
HAC事業部 メディアサービス
チーフエンジニア
市川 有人氏

併せ持ち、一般的なFTPと比べて数十倍～数百倍以上の高速なファイル転送や複数拠点への一斉ファイル送信を実現することを特長としています。

倉本氏は、「お客様は業界内でも非常に有力なコンテンツ制作会社であり、私たちの事業拡大のためにも、何とでもご要望にお応えしたいと考えました」と話します。さらに市川氏も、「IBM Asperaについては、その卓越した高速性能から海外でも幅広い企業に利用されていることを認知しており、私たちもぜひこの技術を取り入れたいと思っていました」と話し、今回の依頼をまたとないビジネスチャンスと捉えました。

ただ、そこに立ち上がったのが非常にタイトな納期への要求でした。ヒューマックスシネマがアニメーション制作会社から打診を受けたのは2018年6月20日頃のことですが、7月初めまでに映像コンテンツのデリバリーを完了してほしいということでした。与えられた猶予は実質1週間程度しかありません。「そのような短期間で社内にIBM Asperaの運用基盤を構築するのは現実的に不可能で、設備投資として必要となる初期投資への目途も立たず、今回は見送るしかない」とあきらめかけていました」と倉本氏は振り返ります。

そうした中に光明をもたらしたのが、シーティーシー・エスピー株式会社（以下、CTCSP）から寄せられた提案です。2018年4月にリリースされたばかりのIBM Aspera on Cloudを軸に据えたソリューションで、「SaaSソリューションとしてIBM Asperaを利用できるのなら、スケジュール的にもコスト的にも問題はない」（市川氏）と、導入を即決しました。

【効果/将来の展望】

国内外の20カ所を超える配信事業者に向けて 高速・高信頼のデリバリーを実現

もっとも、いかにSaaS型のソリューションとはいえ、わずか1週間程度の短期間のうちに導入から実務での利用までステップを進めるのは容易なことではありません。

「CTCSPはIBMと緊密な連携をとり、契約手続きがスムーズに進むように尽力してくれました。また、並行してトライアル版を手配していただいたおかげで、操作方法の習得や性能検証などの事前準備を進めることができました」と市川氏は話します。

そして実際に、クライアントから要求されたスケジュールどおりに7月初めまでに、すべての配信事業者へ映像コンテンツのデリバリーを実現することができました。

「今回の案件では、具体的には容量約25GBの映像コンテンツのデジタル・データを、国内の放送局および国内外の動画配信サイトの計20カ所を超える事業者に向けてデリバリーを行ったのですが、IBM Aspera on Cloudは転送速度でも品質面でも、まったく問題は生じませんでした」と語るのは、同社 HAC 事業部 メディアサービスのチーフエンジニアである毛利 仁人氏です。そして、「ユーザー・インターフェースもシンプルでわかりやすく、転送プロトコルなどの技術の詳細を理解しなくても、誰でも簡単にすぐに利用できるのは、他のファイル転送手段を上回る非常に大きなアドバンテージです」と強調します。

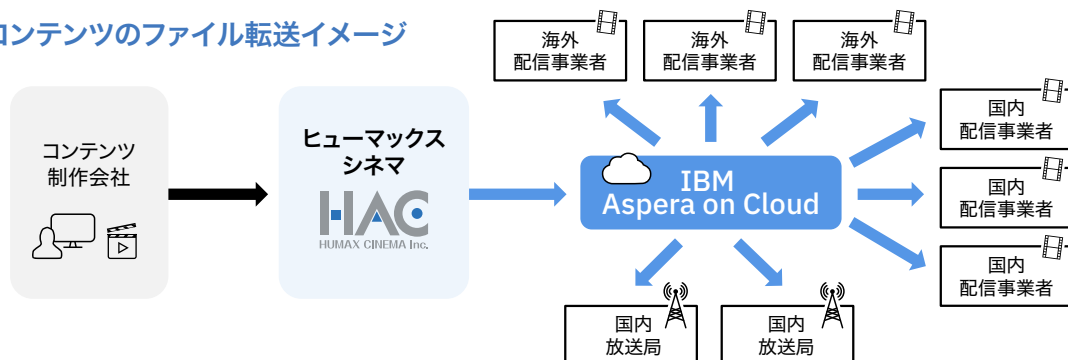
この実績をもとに、ヒューマックスシネマは今後も多様なコンテンツのデリバリーにおける新たな選択肢としてIBM Aspera on Cloudを活用していく考えです。「今回導入したのは

IBM Aspera on Cloud
のユーザー・インター
フェースもシンプルで
わかりやすく、誰でも
簡単にすぐに利用でき
るのは、他のファイル
転送手段を上回る非常
に大きなアドバンテージ
です。



株式会社ヒューマックスシネマ
HAC事業部 メディアサービス
チーフエンジニア
毛利 仁人氏

映像コンテンツのファイル転送イメージ





左から毛利氏、倉本氏、市川氏

Standard Editionですが、契約期間は1年間あり、必要に応じて転送容量も柔軟に追加することも可能。SaaSならではのメリットとして利用しない期間に無駄なコストをかけることなく、新たな案件が発生すれば、いつでもすぐに対応できます」と市川氏は話します。

さらにヒューマックスシネマは、新たな案件を受け身の姿勢で待つだけでなく、より能動的にIBM Aspera on Cloudの活用をコンテンツ制作会社にも働きかけていく意向です。

「今後、映像をはじめとする多様なコンテンツのデリバリー先は、放送局や動画配信サイトにとどまらず、各種シアターや公共施設などにも広がっていくと予想されます。そこに向けて、IBM Aspera on Cloudを活用し、私たちの提案力や技術力を積極的にアピールしていきたいと考えています」と倉本氏は話します。ヒューマックスシネマ HAC事業部は、IBM Aspera on Cloudによって実現するファイル転送の高速化やオペレーションのシンプル化といった付加価値を前面に打ち出し、コンテンツ・デリバリーの新たな市場を開拓しようとしています。



株式会社ヒューマックスシネマ HAC事業部

〒162-0067 東京都新宿区富久町9番11号
<http://www.hacstudio.com/>

映画興行／映像関連事業を手がける株式会社ヒューマックスシネマのポストプロダクション総合スタジオ。ライブパッケージやミュージック・ビデオなど音楽系コンテンツの映像・音声処理を主な業務とし、ビデオパッケージやCMなどの制作受注から編集、ミキシング作業、エンコードまで一貫して請け負っています。



シーティーシー・エスピー株式会社

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-16-7
<http://www.ctc-g.co.jp/~ctcsp/>

世界中のユニークな先端製品で構成する映像・コンテンツ配信、エンドポイント・セキュリティ、ワークスタイル変革を中心としたソリューションが高く評価されており、今後はIoTやAIなどの成長分野のソリューションにも注力していきます。



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2018

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

このカタログの情報は2018年11月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。IBM、IBMロゴ、ibm.com、Aspera、およびFASPは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBM商標リストについてはwww.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。